

研究だより



せらにし小学校研究部

令和元年 5月 8日

No. 2

運動会本番に向けて、練習が本格化してきました。練習で忙しい毎日ですが、授業づくりも大事にしていきたいと思えます。

「研究だより」1号で、【重点取組】☆「課題発見・解決学習」について共通認識を図りました。日頃の授業で本校の「学習の流れ」を意識されていますか。1時間の授業の中で、何を教え、何を考えさせるのか明確にした上で、授業づくりを行っていきましょう。



さて、突然ですが次の問題文を読んで、立式してください。

3分の2 Lのペンキがあります。
このペンキの重さを測ったら、4分の3 kg ありました。
このペンキ1 Lの重さは何 kg ですか。

式

立式する時にどのように考えましたか？すぐに立式できた方、文章にラインを入れた方、数直線図を書かれた方、簡単な数値に置き換えて考えた方、きっとそれぞれいらっしゃると思います。私たちは、ある程度の“考えるための道具”をもっているのです、問題に応じて使うことができます。

では、子どもたちはどうでしょうか。何の“道具”ももたないまま、「考えてみましょう。」と言われてもきっと困るでしょう。

本校の課題として、“考えるための道具”を活用できていないという実態があります。児童が使うことができないということは、私たちがこれまで使い方を教えていなかったということかもしれません。そこで、どのような道具があり、それらをどの時期に指導していけば良いか、共通認識をもっておきたいと思えます。

算数科では、次のような“考えるための道具”があります。

- | | |
|---------|---------------------------------|
| ①ブロック | 具体物で視覚的に |
| ②絵 | 絵に言葉や数を付け加える |
| ③○図 | |
| ④テープ図 | ①～③をテープで表現 |
| ⑤線分図 | 数量の関係を表す |
| ⑥数直線図 | |
| ⑦関係図 | 数量間の関係を矢印や言葉で表す |
| ⑧4マス関係表 | 縦と横の関係が同じになるように描き、比例関係で成り立っている表 |

使う場面

- ①問題をイメージする場面
- ②数量の関係をつかむための場面
- ③説明するための場面

“考えるための道具”

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
①ブロック	○	○				
②絵	○	○	○			
③○図	○	○	○			
④テープ図		○	○			
⑤線分図		○	○	○	○	○
⑥数直線図			○	○	○	○
⑦関係図			○	○	○	○
⑧4マス関係表				○	○	○

(参考文献「どの子ども文章題に立ち向かえる！算数授業づくり」樋口万太郎)

夏休み中に、どの単元でどの“道具”が使えるか各学年でよりくわしい一覧を作ってもらいたいと思います。1学期に使ったものは、メモしておくなどしておいていただけるとありがたいです。



※今後の研修予定

5月 8日(水) 第5学年算数科 シミュレーション

15日(水) 運動会予行練習反省

22日(水) ICT研修 第5学年算数科 シミュレーション

29日(水) 第5学年算数科提案授業研修(世羅町「学びの変革」推進協議会)

今年度から、提案授業前の学習指導案検討をシミュレーションに変えます。シミュレーションまでに学習指導案を作成してください。本時が単元の中でどのような位置づけとなるのか、何を身に付けさせたいのかねらいを明確にしておいてください。

また、授業研で扱う単元は、該当学年の課題となるものであるか、発展的な問題にチャレンジする単元であるか、どちらかにします。年間指導計画を見て、授業研と11月の公開研で取り上げる単元を考えておいてください。